

佐渡島 2年ぶり艦艇広報 YDT01の特別公開を実施



新潟地本（本部長 1陸佐 大倉正義）広報室（室長 1陸尉 鈴木勝太）は、6月26日（土）27日（日）新潟県佐渡市の両津港において、佐渡駐在員事務所（所長 准空尉 渡部 道晴）統制の下、水中処分母船1号（以下 YDT01という）の特別公開を実施しました。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり佐渡市での艦艇広報は実施できず、今回は約2年ぶりの艦艇広報となりました。

当日は乗組員全員がコロナワクチンを接種済みという万全の態勢で特別公開が実施され2日間で延べ約210人の参加者が「YDK01」を見学しました。

参加者は、15名程度のグループとなり、乗組員に案内され甲板から船室、艦橋などを見学しながら水中処分母船の特徴などの説明を受けました。特に水中における爆発物の処理方法、水中処分隊員の装備品の数々の説明に興味深そうに聞いていました。



また、甲板で乗組員3名によるラッパ吹奏が行われ、参加者は統制の取れた力強い演奏を堪能していました。艦艇内の食堂では海上自衛隊新隊員教育隊の卒業アルバムなどの展示が行われ、普段見ることのできない教育中の新隊員の姿に興味を示していました。

特別公開終了後、参加者から、「隊員の方々のアットホームな感じが伝わってきてとても楽しかった」「色々な装備を駆使して爆発物を処分する隊員はすごいと思った」「自衛隊は辛い、厳しいと思っていたが（卒業アルバムを見て）イメージが変わった、とても楽しそうだ」等の様々な感想を聞くことができました。

岸壁の広報ブースでは、ガラポン抽選会や、制服の試着、広報DVDの上映等で参加者を楽しませました。また、佐渡市のテレビ局が艦艇を訪れ取材を行うなど艦艇の注目の高さがうかがえました。



2日間の特別公開を終え、参加者一人一人の感想や応援メッセージを綴った寄せ書きが「YDT01」の隊員にプレゼントされ、2日間の感謝の気持ちが伝えられました。

新潟地本は今後も艦艇広報を通じて、海上自衛隊に対する理解の向上を図るとともに、更なる志願者の獲得に繋げていきます。

